

GEKI×CINE
薔薇とサムライ
 Goemon Rock OverDrive

天下の大泥棒・古田新太 VS 最強の女海賊・天海祐希

エンターテインメントを愛する人々が熱狂した《劇団☆新感線》のステージが
 2011年6月25日(土)より、《ゲキ×シネ》として全国の映画館に登場!



【作】中島かずき 【演出】いのうえひでのり 【作詞】森 雪之丞

【出演】古田新太 天海祐希

浦井健治 山本太郎 神田沙也加 森奈みはる / 橋本じゅん 高田聖子 粟根まこと / 藤木 孝

【映像製作】イーオシバイ 【配給】ヴィレッチ ティ・ジョイ 【著作】ヴィレッチ 劇団☆新感線

6月25日(土) 新宿バルト9、梅田ブルク7 他全国公開



INTRODUCTION

これぞ娯楽超大作！！

歌ありダンスあり笑いありアクションあり！
エンターテインメントを愛する人々が熱狂した
《劇団☆新感線》のステージがゲキ×シネに一。

日本のエンターテインメント界のトップを走り続ける劇団☆新感線。
主宰で演出家のいのうえひでのりが打ち出すダイナミックな世界観は、常に多くの観客を魅了している。

今夏ゲキ×シネ最新作として登場する『薔薇とサムライ』は、大ヒット作『五右衛門ロック』（09年上映）の
パラレルストーリー。新感線の看板俳優・古田新太演じる大人気キャラ、天下の大泥棒（石川五右衛門）が
男気たっぷりに今回はヨーロッパの大海で大暴れ！ 座付作家・中島かずきによる巧妙で胸躍る勧善懲悪な
劇画的ストーリーを、ロックからバラードまで生バンドのグルーブに乗せて繰り広げる本作は、舞台＝演劇
という枠を超え、「これぞまさに唯一無二の娯楽超大作」とエンターテインメントを愛する
多くの人々から熱く支持された。

そして特筆すべき今作品の目玉は、
古田新太 × 天海祐希 の顔合わせが
実現した事。

天海は、古田演じる（五右衛門）と固く友情で
結ばれながら敵対することになる（アンヌ・ザ
・トルネード）を熱演する。新感線作品2度目
の出演となる天海は、勇ましい海賊から華麗な
女王まで様々な衣裳をまといながら変幻自在に
演じ、歌にダンスにアクションに笑い(!)にと
ありとあらゆることに挑戦。
その鮮やかな七変化ぶりは、観ているだけで息
を飲む。



ほか藤木孝、浦井健治、山本太郎、神田沙也加、森奈みはるという個性豊かな豪華俳優陣に加え、
橋本じゅんや高田聖子、栗根まことら劇団員が作品に強度を与える。また新感線作品ではお馴染みになりつ
つある森雪之丞による小気味良いリリックに乗った、岡崎司作曲のキャッチーな音楽は、思わず一緒に歌い
たくなるほど楽しい。

多くの観客を熱狂させた極彩色の新感線ワールドを堪能できる本作を、デジタルシネマの最新技術によって
収録。様々な角度から撮られた画を大胆かつ繊細にディレクション、映画館での上映用に音声も再調整し、
舞台ならではのパワフルさと臨場感がスクリーンからも溢れんばかりのゲキ×シネ作品に仕上がった。

俳優の細かな表情から華やかな全体像まで、オイシイ部分をギュッと凝縮させたゲキ×シネ『薔薇とサムラ
イ』は、大スクリーンでこそ、その魅力が遺憾なく発揮される。

ラストシーンを観終えた瞬間にスタンディングして拍手したくなるほど、心踊る興奮の3時間を提供。スツ
キリ晴れやかな爽快感と幸福感に包まれて、劇場を後にできるだろう。



STORY

<long ver.>

それはとびっきりおもしれえ女だった。

左の眼を覆う黒い眼帯。

弱きを助け、強きをくじく男以上の男前。

疾風のようにエメラルド色の地中海を駆け抜ける女海賊、

その名をアンヌ・ザ・トルネード(天海祐希)。

だが隠された左の目に驚くべき秘密があった。

瞳に浮かぶ光……それは亡き国王と同じ黄金色の光の輪……。

てこたァあの女海賊の正体は——!?

そしてその瞳に、次々と人間どもが群がった。

国王亡きあと権力を欲しいままにする大宰相ラーカム(藤木 孝)とその娘・マローネ(高田聖子)。

黄金色の瞳の輝きに王家復活の希望を託す將軍ガファス(栗根まこと)と

妻・エリザベッタ(森奈みはる)。

そして新女王の美しさに魅入られた隣国の王子・シャルル(浦井健治)。

……果たして誰が味方で誰が敵か。

さらには金と欲の風見鶏、大海賊バルバ・ネグロ(橋本じゅん)と、
オレ様の首を付け狙う妙な日本人・デスペラード豹之進(山本太郎)。

……次々と変転する野心と悪意の、何が本当で何が嘘か。

おもしれえ。

絡みに絡んだカラクリをこの俺が全部ひっぺがしてやるよ!

城の中、羽ばたく心を奪われたお姫さま(神田沙也加)よ、よく見てな。

俺の名は、七つの海を股にかける大泥棒、石川五右衛門(古田新太)。

地中海の海賊ども、みんな俺についてこい!

空に真白い帆を上げろ!

さァ退屈な中世に、俺が自由の風穴を開けてやる!



STORY 〈short ver.〉

女は、国を救うために己を捨てた——

男は、女を守るために刀を取った——

時は17世紀、ヨーロッパのイベリア半島。

天下の大泥棒・石川五右衛門(古田新太)は女海賊のアンヌ・ザ・トルネード(天海祐希)の用心棒として、地中海で暴れ回っている。

ある日、アンヌが小国の王家継承者だと判明。王亡き後の腐敗政治を聞いた彼女は、生粋の男気で女王就任を引き受ける。最初の仕事は海賊の討伐。不本意ながら、アンヌの仲間を守っていた五右衛門と対立することに。一連の出来事を不審に思った五右衛門は、アンヌを救い出すべく城に乗り込んだ。

そこで、五右衛門が見たものは……!?

五右衛門とアンヌ、ふたりの運命やいかに!!





CAST Profile

古田新太(ふるた・あらた) 1965年12月3日生まれ 兵庫県出身



劇団☆新感線の看板役者。大阪芸術大学在学中、『宇宙防衛軍ヒデマロ』(84)から劇団☆新感線に参加。

『戴原検校』(07)、タイトルロールを務めたパルコ・プロデュース『リチャード三世』(08-09)など外部の舞台へも積極的に参加する他、自ら企画・出演する舞台も上演している。

映画、テレビドラマなど、映像の分野でも活躍。

docomoの携帯番組BeeTV『伝染るんです。』では“かわうそ”を演じて話題に。ほか、バラエティ番組への出演や、コラムニストとしても活躍しており、著書に『魏志痴人伝』『柳に風』がある。

【近年の出演作】

<舞台> 『流れ姉妹〜たつことかつこ』(11)、『ザ・キャラクター』(10)、
『印獣』『桜姫』(09)

<映画> 『毎日かあさん』(11)、『シーサイドモーター』『十三人の刺客』(10)

<ゲームソフト> ニンテンドーDS「二ノ国―漆黒の魔導士」、
プレイステーション3「二ノ国―白き聖灰の女王」

<CM> ロート製薬「モアストレッチ錠」

天海祐希(あまみ・ゆうき) 1967年8月8日生まれ 東京都出身



宝塚歌劇団に入団した87年に、『宝塚をどり讃歌』で初舞台を踏む。93年に史上最短で月組男役トップスターに就任、95年、惜しまれつつも退団。

以降、テレビドラマ、映画、CMなどで幅広い活躍を続け、数多くの賞も受賞。

実力派女優として確固たる地位を確立している。

ドラマ『離婚弁護士』(04)、『Around 40』(08)、『BOSS』(09)

などの役柄から理想の女性上司像として挙げられることも多い。

劇団☆新感線には『阿修羅城の瞳』(03)以来2度目の参加となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『テイクフライト』(07)、『オケピ!』(03)、
『パンドラの鐘』(99)

<映画> 『カイジ』『アマルフィ 女神の報酬』(09)、『サウスバウンド』(07)

<テレビドラマ> 『わが家の歴史』(10)、『不毛地帯』(09-10)

浦井健治(うらい・けんじ) 1981年8月6日生まれ 東京都出身



2000年『仮面ライダークウガ』敵の首領・ダグバ・ゼバ役でデビュー。
04年 ミュージカル『エリザベート』ルドルフ皇太子役に抜擢。以降ミュージカルを中心にストレートプレイ、リーディングといった数々の舞台作品に出演。
06年のミュージカル『アルジャーノンに花束を』では初主演を務め、第31回 菊田一夫演劇賞受賞。09年にはシェイクスピアの大作歴史劇『ヘンリー六世』三部作においてタイトルロールを好演し、第44回紀伊國屋演劇賞個人賞、第17回読売演劇大賞杉村春子賞を受賞。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『エディット・ピアフ』(11)、『エリザベート』『宝塚BOYS』(10)、
『蜘蛛女のキス』(10・07)、『ヘンリー六世』(09)、
『ダンス オブ ヴァンパイア』(09・06)
今年6・7月と三谷幸喜氏の新作『ベッジ・バードン』に出演を予定している。

山本太郎(やまもと・たろう) 1974年11月24日生まれ 兵庫県出身



『元気が出るテレビ!!』への出演を機に芸能界入りし、91年に映画『代打教師』で俳優デビュー。以降、映画・テレビドラマなど話題作に多数出演し、2001年の第11回日本映画批評家大賞助演男優賞、03年度第46回ブルーリボン賞助演男優賞(『MOON CHILD』『ゲロッパ!』『精霊流し』の演技において)を受賞。ほかにも、バラエティやナレーションなど、幅広い活躍をしている。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『ワルシャワの鼻』(09)、『出島』(00)
<映画> 『ジェネラル・ルージュの凱旋』『火天の城』『カイジ』(09)、『252 生存者あり』(08)、
『力道山』(06)、『ゲロッパ!』(04)、『光の雨』(01)、『バトル・ロワイヤル』(00)
<テレビドラマ> 『アイシテル〜海容〜』(09)、『レガッタ』『水壁』(06)、『新選組!』(04)

神田沙也加(かんだ・さやか) 1986年10月1日生まれ 東京都出身



99年に初めて出演したアメリカ短編映画『Bean Cake(おはぎ)』が、2001年の第54回カンヌ国際映画祭短編映画部門パルムドールを受賞。
02年『ever since』で歌手デビュー、03年からは映画、テレビドラマに出演。初舞台は04年『INTO THE WOODS』。以降、幅広く活躍している。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『レ・ミゼラブル』(09・11)『ピーターパン』(09・10・11)、
『SHE LOVES ME』(09-10)、『グリース』(08)、『ウーマン・イン・ホワイト』(07)、
『紫式部ものがたり』(06・08)
<映画> 『アメイジング グレイス』(11)、
『劇場版 さらば仮面ライダー電王 ファイナル・カウントダウン』『ヘイジャパ!』(08)
<テレビドラマ> 『ヤンキー母校に帰る』(03)

森奈みはる(もりな・みはる) 1968年3月16日生まれ 埼玉県出身



88年宝塚歌劇団に入団し、同年『キス・ミー・ケイト』にて初舞台を踏む。
92年に花組娘役トップスターに就任し、95年に退団。以降、ミュージカルからストレートプレイまでジャンルを問わず舞台を中心に活動。映像の分野でも活躍している。劇団☆新感線には『西遊記〜PSY U CHIC〜』(99)、『阿修羅城の瞳』(00)、『大江戸ロケット』(01)、『花の紅天狗』(03)に続き5度目の出演、『蛮幽鬼』(09)には劇中の挿入歌で参加。

【近年の出演作】

<舞台> 『SEMPO』(08)、『円生と志ん生』(07)、『わかば』(05)
<映画> 『コワイ女』(06)
<テレビドラマ> 『黄金の豚』(10)、『水戸黄門』『夢をかなえるゾウ』(08)

橋本じゅん(はしもと・じゅん) 1964年2月25日生まれ 兵庫県出身



85年、大阪芸術大学在学中より劇団☆新感線に参加。
代表作は“直撃!ドラゴンロック”シリーズ。激しいトレーニングをして臨む格闘家・剣轟天役は、多くの人を虜にした。“なくてはならない存在”として多くの劇団公演に出演する一方で、劇団公演以外でも、舞台に映画、テレビドラマなどで活躍する。
また、舞台を降りれば海をこよなく愛する釣り人である。

【近年の出演作】

<舞台> 『ピーターパン』 『鋼鉄番長』 『ファニー・ガール』(10)、 『ピーターパン』(09)、
 『私生活』(08)、 『テイクフライト』(07)
<映画> 『激情版 エリートヤンキー三郎』(09)、 『隠し砦の三悪人』(08)
<テレビドラマ> 『救命病棟24時』(09)、 『ハチミツとクローバー』(08)、
 『エリートヤンキー三郎』(07)

高田聖子(たかだ・しょうこ) 1967年7月28日生まれ 奈良県出身



大学在学中にスカウトされ、87年『阿修羅城の瞳』より劇団☆新感線に参加し、現在に至るまで看板女優として活躍。
自身が座長を務めるプロデュース集団「月影十番勝負」「月影番外地」の公演も定期的に行っている。劇団公演以外にも、舞台、テレビドラマに多数出演するほか、映画などでも活躍している。ブログ『高田聖子の見られていい日記』は、ほのぼのの継続中。

【近年の出演作】

<舞台> 『南へ』(11)、 『ジェット窓から手を振るわ』 『鋼鉄番長』(10)、
 『スベリング・ビー』(09)、 『舞台は夢』(08)、 『キル』(07-08)
<映画> 『酔いがさめたら、うちに帰ろう。』(10)
<テレビドラマ> 『火の魚』(09)、 『ホームレス中学生』(08・09)、
 『芋たこなんきん』(06-07)、 『やんちゃくれ』(98-99)

栗根まこと(あわね・まこと) 1964年8月7日生まれ 大阪府出身



85年『ヒデマロ2』より劇団☆新感線に参加。
マッドな博士から薄幸の美男子まで幅広く担当し、現在の劇団の中核を担う存在。
コメディからミュージカルまでこなす芸達者ぶりは評価が高い。
劇団公演以外にも、舞台や映像で様々な作品に出演している。
また、人物の観察力が鋭く、イラストも得意なことから雑誌のコラムなどでもその芸達者ぶりを発揮している。

【近年の出演作】

<舞台> 『罪と、罪なき罪』 『流れ姉妹〜たつことかつこ』 『鋼鉄番長』(10)、 『斉藤幸子』(09)、
 『冬の絵空』(08-09)、 『昭和島ウォーカー』 『罪と、罪なき罪』(08)
<映画> 『これでいいのだ!!』(11)、 『インスタント沼』(09)、 『隠し砦の三悪人』(08)、
 『ローレライ』(05)
<テレビドラマ> 『猿ロック』(09)、 『トンスラ』(08)、 『功名が辻』(06)、 『新選組!』(04)

藤木 孝(ふじき・たかし) 1940年3月5日生まれ 静岡県出身



59年東宝芸能学校卒業後、歌手デビュー。その後、俳優へ転身。
文学座養成所を経て76年より劇団「昴」に参加し、06年に退団。
劇団在団中から外部の作品に多数出演するほか、テレビドラマや映画にも数多く出演。
菊田一夫演劇賞や紀伊國屋演劇個人賞などを受賞している。
いのうえひでのり演出作品には『リチャード三世』(08-09)以来、2度目の参加となる。

【近年の出演作】

<舞台> 『南へ』(11)、 『愛、時を越えて〜遙かなる時空の運命〜』(10)、
 『マイ・フェア・レディ』(05・07・09)、 『タイタニック』(07・09)、
 『プロデューサーズ』(05・08)、 『かもめ』(08)
<テレビドラマ> 『ブラッディ・マンデーシーズン2-』(10)、
 『853〜刑事・加茂伸之介』(10)、 『不毛地帯』(09)、 『水戸黄門』(09)、
 『篤姫』(08)、 『相棒Season4』(06)、 『新選組!』(04)



STAFF Profile

<演出> いのうえひでのり 1960年1月24日生まれ 福岡県出身

80年に劇団☆新感線を旗揚げ。以来、ドラマ性に富んだ外連味たっぷりの時代活劇《いのうえ歌舞伎》、生バンドが舞台上で演奏する音楽を全面に出した《Rシリーズ》、作・演出を行う笑いをふんだんに盛り込んだ《ネタもの》など、エンターテインメント性にあふれた多彩な作品群で【新感線】という新たなジャンルを確立させた。劇団の本公演以外でも、バルコ・プロデュース『リチャード三世』（08-09）や、シス・カンパニー公演『怪談 牡丹燈籠』（09）など、プロデュース公演の演出を多数手掛けている。

近作に、劇団の代表作である『罽鞆城の七人』の再演（2011年8月～10月）が決まっている。また、外部公演の演出としてはバルコ・プロデュース『ロッキー・ホラー・ショー』（2011年12月～2012年2月）でリスペクトするリチャード・オブライエンに挑む。

- 【受賞歴】 ●第14回日本演劇協会賞（『罽鞆城の七人』『SHIROH』の演出において）
●第9回千田是也賞（『メタルマクベス』の演出において）
●第61回芸術選奨文部科学大臣新人賞（『メタルマクベス』の演出において）

<作> 中島かずき（なかしま・かずき） 1959年8月19日生まれ 福岡県出身

『炎のハイパーステップ』（85）より座付き作家として劇団☆新感線に参加。『スサノオ』『罽鞆城の七人』『阿修羅城の瞳』など歴史や神話をモチーフにし、物語性を重視しながら複雑に絡み合う伏線を多用した脚本は、疾走感とグルーブ感あふれる演出と相まって劇団の代表作となっている。また、劇団外の舞台作品『戯伝写楽』（10）、『ジャンヌダルク』（10）などにも書き下ろす他、テレビアニメ『天元突破 グレンラガン』（07）の脚本・シリーズ構成、アニメ版『のだめカンタービレ フィナーレ』（10）のシリーズ構成など活動の幅は広い。

近作に、90年の初演から7年ごとに上演されてきた劇団の代表作である『罽鞆城の七人』を今年8月～10月に新たなキャストで再演（4度目）することが決まっている。

- 【受賞歴】 ●第47回岸田國土戯曲賞（『アテルイ』の脚本において）

<作詞> 森 雪之丞（もり・ゆきのじょう） 1954年1月14日生まれ 東京都出身

作詞家・詩人。76年に作詞&作曲家としてデビュー。以来ポップス、アニメソングなどで数々のヒット・チューンを生み出したが、90年代以降、布袋寅泰、氷室京介など多くのロック・アーティストから支持を受け、先鋭的な歌詞の世界を築き上げる。これまでに手掛けた楽曲は2000曲以上。

近年は、舞台・ミュージカルでも活躍。『トゥーランドット』（08）、『シカゴ』（08、10再演）、『ドロウジー・シャペロン』（09）などでの作詞、訳詞だけでなく、音楽プロデューサーとしても多くの作品を手掛ける。

劇団☆新感線には『五右衛門ロック』（08）、『蛮幽鬼』（09）に続き3作目の参加となる。

■映像版STAFF Profile

<ゲキ×シネ・プロデューサー> 金沢尚信（かなざわ・たかのぶ）1969年生まれ。

映像単体で楽しめる演劇の映像。というコンセプトの基に、映像製作・配信を行うE!oshibai（イーオシバイ）を2001年に開始。以降、劇団☆新感線を中心とした演劇の映像制作を、30作品以上手がける。

またこれらの作品を映画館で上映するスベックにて製作、後のゲキ×シネとなる。

2004年の上映開始以降、ゲキ×シネ全作品のプロデューサーを務める。

■ What's GEKI×CINE?

◀ <http://www.geki-cine.jp/> ▶

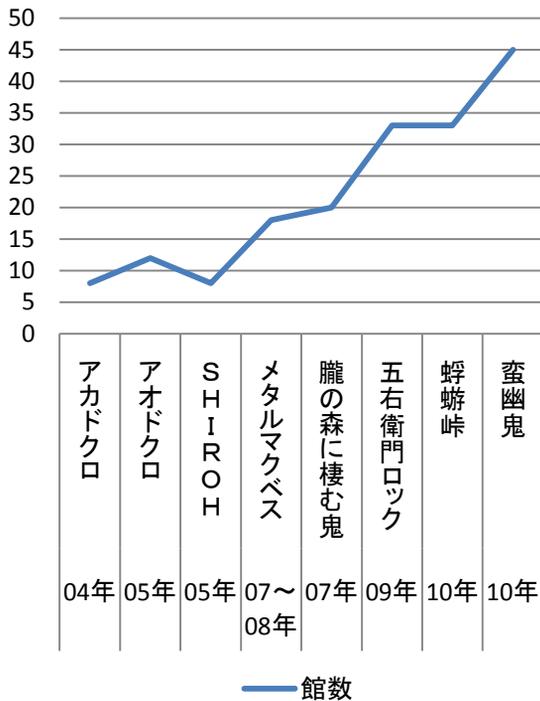
生のライブ感と映像ならではの表現が紡ぎだす、新感覚エンターテインメント《ゲキ×シネ》

圧倒的な人気を誇る劇団☆新感線の、一流の俳優たちと一流のスタッフたちで生み出した舞台作品を「まるで映画のように楽しめる作品」としてオイシイ部分を凝縮させて映像化。多くの観客に届けるべく映画館で上映する、という新しい演劇映像のスタイルを確立した。

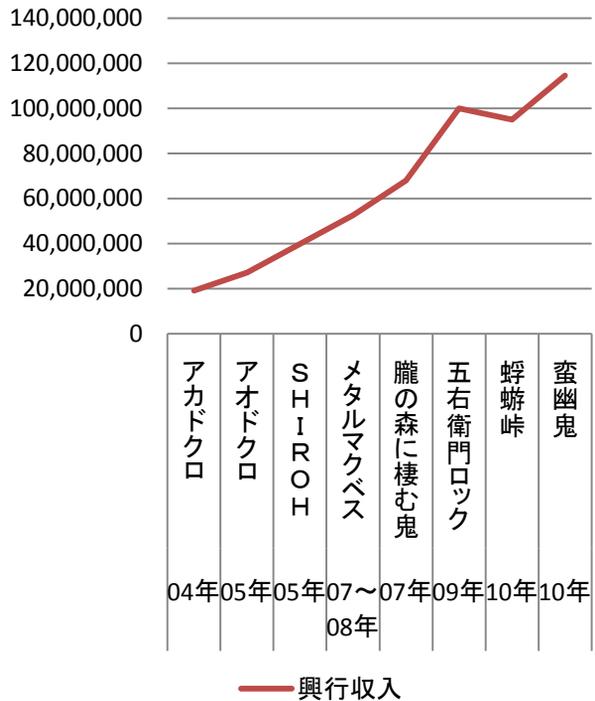
10数台にもなるHDカメラをはじめ、最新のデジタルシネマの技術を用い、3時間を超える舞台の魅力を超すところなく撮影。この「究極の長回し」とも言えるダイナミックな撮影スタイル、俳優の汗や涙、感情の機微まで体感できるように計算された緻密な映像表現、臨場感を増幅させる繊細でクリアな音響は、思わず映像を観ていることを忘れるほど作品世界に入り込むことができ、想像以上のライブ感と興奮が味わえる。いわゆる舞台中継映像とは一線を画すとの評価も。初めて体験した人々より、感嘆の声が多く聞かれる。

2004年『アカドクロ』の上映を皮切りに、1作品ごとに公開館数及び興行収入が右肩上がりに伸びている(下記図参照)。これは新感線ファンや演劇ファンのみならず、映画ファンからも支持され、“映画館で楽しむ新たなエンターテインメント”として最新作を待ちわびるファンが急増していることを証明。そして2011年、通算9作目となるゲキ×シネ最新作『薔薇とサムライ』は、ゲキ×シネ史上最多の公開館数でスタートすることがすでに決定、これまで以上の盛り上がりを見せている。

ゲキ×シネ公開館数の推移



ゲキ×シネ興行収入の推移



■ What's 劇団☆新感線?

◀ <http://www.vi-shinkansen.co.jp/> ▶

オリジナリティあふれた活劇で、日本エンタメ界の一角を築く

観客動員数を増やし、ひと公演の動員数は約10万人——市川染五郎、堤真一、天海祐希、などの豪華客演陣を迎え、舞台という限られたLIVE空間で体感する極上エンターテインメント。2ヶ月という長い上演期間にもかかわらず、今最もチケットが取れない劇団のひとつと言われる。

1980年、つかこうへい氏に傾倒した大阪芸術大学のメンバーで旗揚げ。“笑い”を意識したオリジナルのSF活劇をひっそり東京へ進出。その後、座付作家・中島かずき書き下ろす時代活劇を主宰・いのうえひでのりがケレン味たっぷり演出する作品<いのうえ歌舞伎>シリーズ、生バンドでROCKを重視した<R>シリーズなどで、日本エンターテインメント界の一角を築く。昨年、2010年で旗揚げ30周年を迎えた。

本作『薔薇とサムライ』は、<R>シリーズのゴージャス版・<RX>(ROCK EXTRAの略)として上演された。

■作品情報

- タイトル **ゲキ×シネ 『薔薇とサムライ』** (ばらとさむらい)
- 出演者他 [作] 中島かずき [演出] いのうえひでのり [作詞] 森 雪之丞
- [出演] 古田新太 天海祐希
浦井健治 山本太郎 神田沙也加 森奈みはる
橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと / 藤木 孝
- 公演記録 10年3月-4月◎ 赤坂ACTシアター(東京) 4月-5月◎ 梅田芸術劇場メインホール(大阪)
- ゲキ×シネ [映像製作] イーオシバイ [配給] ヴィレッチ ティ・ジョイ [著作] ヴィレッチ 劇団☆新感線
2011/日本/カラー/197分/5.1chサラウンド ※途中休憩あり

■ゲキ×シネ上映情報

- 公開日 **2011年 6月25日(土) 全国上映スタート!**

- 上映劇場 ◎6月25日(土)～
- | | | |
|---|--|--|
| 札幌シネマフロンティア(北海道)、
フォーラム山形(山形)、
フォーラム福島(福島)、
MOVIXさいたま(埼玉)、
新宿バルト9(東京)、
MOVIX昭島(東京)、
MOVIX柏の葉(千葉)、
MOVIX橋本(神奈川)、
MOVIX清水(静岡)、
TOHOシネマズ名古屋ベイシティ(愛知)、
T・ジョイ京都(京都)、
なんばパークスシネマ(大阪)、
広島バルト11(広島)、
T・ジョイ出雲(島根)、
T・ジョイ博多(福岡)、
T・ジョイ久留米(福岡)、
シネプレックス熊本(熊本)、 | フォーラム八戸(青森)、
ワーナーマイカルシネマズ名取エアリ(宮城)、
MOVIX宇都宮(栃木)、
MOVIX川口(埼玉)、
品川プリンスシネマ(東京)、
シネマイクスピアリ(千葉)、
横浜ブルク13(神奈川)、
T・ジョイ新潟万代(新潟)、
ミッドランドスクエアシネマ(愛知)、
MOVIX京都(京都)、
TOHOシネマズ西宮OS(兵庫)、
T・ジョイ東広島(広島)、
MOVIX倉敷(岡山)、
福岡中洲大洋(福岡)、
鹿児島ミッテ10(鹿児島) | フォーラム盛岡(岩手)、
MOVIX伊勢崎(群馬)、
109シネマズ葛蒲(埼玉)、
T・ジョイ大泉(東京)、
T・ジョイ蘇我(千葉)、
チネチッタ(神奈川)、
T・ジョイ長岡(新潟)、
MOVIX三好(愛知)、
梅田ブルク7(大阪)、
エーガル8シネマズ(広島)
アイシネマ今治(愛媛)、
T・ジョイリバーウォーク北九州(福岡)、 |
|---|--|--|
- ◎7月2日(土)～
MOVIX利府(宮城)
- ※6月25日公開を予定していた【MOVIX利府(宮城)】は、震災の影響により、やむを得ず公開日が1週間延期することになりました。現在46館。上記以外の館でも上映を予定しております。決定次第御連絡します。

- チケット **2011年3月26日発売 全国共通前売券 2,000円(税込)**
当日券 / 一般券 2,500円(税込) 学生・小人券 1,800円(税込)
※前売券はご鑑賞前に指定券とお引換下さい。※学生・小人券は当日窓口のみ販売となります。

- 前売販売 チケットぴあ ◎0570-02-9999 <http://pia.jp/t> 店頭 ※Pコード:462-700
イープラス ◎<http://eplus.jp/>
- ローソンチケット ◎0570-000-407 <http://l-tike.com> 『Loppi』
※Lコード 北海道地区:11110 / 東北地区:22220 / 関東・甲信越地区:33388 / 東海地区:4555 / 近畿・北陸地区:55566 / 中国・四国地区:66660 / 九州・沖縄地区:88880

CNプレイガイド ◎0570-08-9999 <http://www.cnplayguide.com>
上映劇場窓口 (※一部上映劇場を除く)

- お客様窓口 ゲキ×シネ上映担当 03-5361-3280 (平日12:00~17:00)
- 公式サイト <http://www.bara-samu.com/> ※携帯、スマートフォンも同様
- 公式ブログ <http://gxcblog.exblog.jp> ※ゲキ×シネ公式ブログとなります。

■本件に関するプレスお問合せ先

予告編映像・宣伝用画像等をご用意しております。プレゼント等実施予定ございます。詳しくはお気軽に下記窓口までお問い合わせ下さい。

PALETTE(パレット) 境(さかい)携帯:090-7414-7136 松浦(まつうら)携帯:090-1467-3069
田中館(たなかだて)携帯:090-1044-7690 Fax:050-3488-6109

●配給お問合わせ

株式会社ティ・ジョイ エンタテインメント事業部:小川
TEL.03-3248-8174 FAX.03-3248-8176 〒104-0061東京都中央区銀座3-10-7銀座東和ビル4F

株式会社ヴィレッチ ゲキ×シネ担当:糸永(いとなが) / 山谷(やまや)
TEL.03-5361-3031 FAX.03-5361-3032 〒160-0022東京都新宿区新宿3-3-8新宿OTビル7F